

ムスリムの人も気軽に訪れ、 ともに暮らせる街づくりにむけた研究

平成 29 年度市民研究員 弥栄 睦子

はじめに

九州大学のインドネシア留学生と交流を始めて 20 年が経つ。彼らの大半はイスラーム教徒（以下ムスリムという）である。イスラームの教えには、食事や礼拝など、さまざまな生活規範⁽¹⁾があるため、彼らと行動をともにするときは、どのような場所でどんな食事をとるか、お祈りの場所をどこに確保するか、いつも気をつかう。

イスラーム過激派の活動がマスコミに大きく取り上げられた際は、ムスリムが福岡市民からマイナスのイメージで見られるのではないかと心を痛めたが、ここ 1 年ほどで、その流れが大きく変わっている。2020 年の東京オリンピック開催に向けて、“ムスリムおもてなしブーム”が起き、日本各地はムスリム歓迎ムードになった。今や、彼らは気軽に日本各地を旅して、ご当地グルメを楽しみ、おいしい料理や美しい風景をスマートフォンに取り、リアルタイムで SNS にアップする。

しかし、他の都市のような盛り上がりを福岡市で感じることはできないのはなぜだろうか。この 20 年間で、福岡市もグローバル化が進み、街のなかで外国人をよく見かけるようになったが、福岡市におけるムスリムへの配慮は、今でもあまり進んでいないように思える。国や文化の違いを認め、仲良く暮らす多文化共生の考え方が進むなか、どうすれば、皆がムスリムと楽しく暮らす福岡市になるのか。さまざまな角度から考察し、その解決案を提示したい。

⁽¹⁾ 唯一絶対の神「アッラー」を信仰するムスリム（アラビア語で「神に帰依する者」という意味）はクルアーン（啓典）とハディース（預言者ムハンマドの言行録）に基づく生活規範を守って生活している。この生活規範に合法的なものをハラール、非合法的なものはハラームといい、ハラームに当たるものは口にしたり、行ったりしてはいけない。

<ムスリムの主な日常生活>

- 断食：イスラーム暦に則って、年に 1 回、約 1 か月間、日中に飲食をしてはならない。
- 礼拝：メッカの方向へひざまずいて 1 日 5 回礼拝する。礼拝前には手足などを清めなければならない。
- 食：豚肉、豚由来の食材（ポークエキス・ゼラチンなど）、アルコール、アルコールが入った食材は禁止。牛肉、鶏肉でも不浄とされるエサで飼育されたもの、イスラーム法に則って屠殺していないものは合法ではないとされる。このほか人間に有害なもの、不快感を与えるものもハラームとさ

れる。※国、宗派、個人によって食べていいものと食べてはいけないものに差がある。

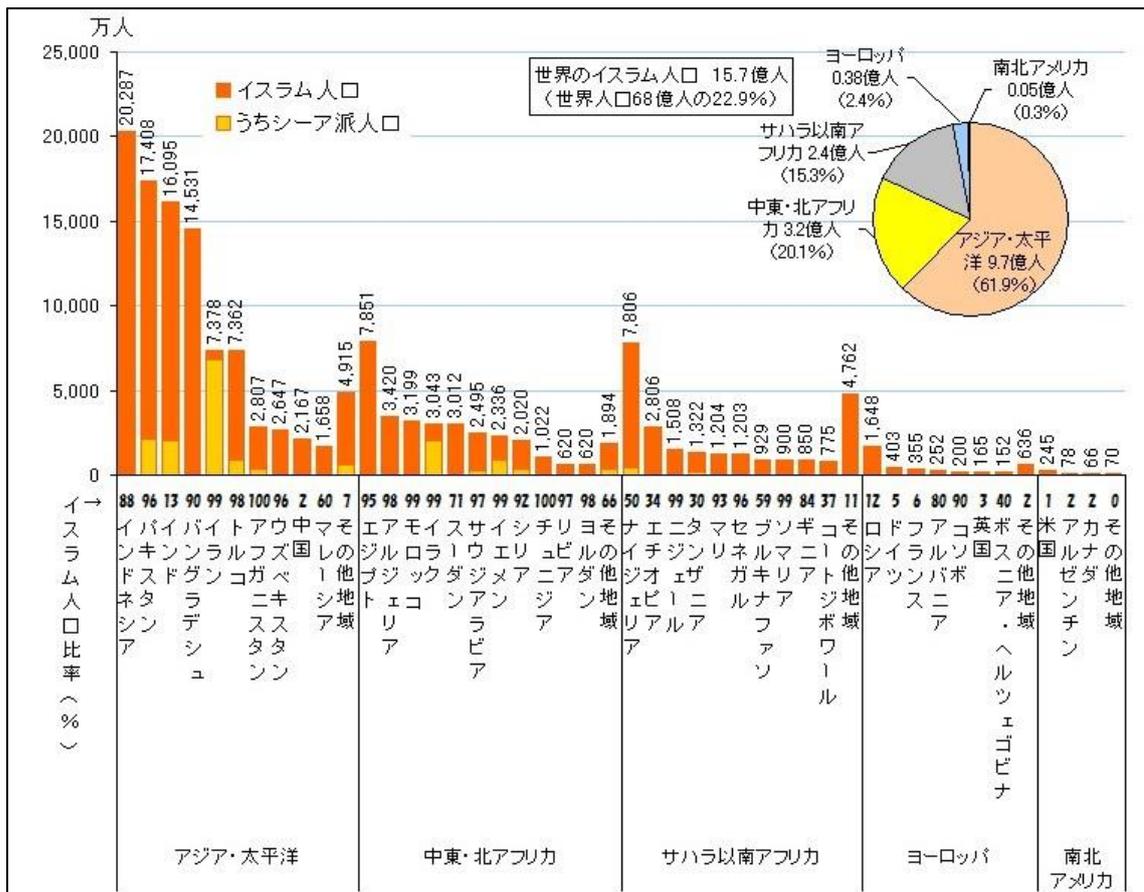
1. ムスリムについて

まず、今後大きな市場として期待されているムスリムを取り巻く世界と日本の動きについてまとめておく。

(1) 世界のイスラーム人口

イスラーム教は世界三大宗教のひとつである。キリスト教に次ぎ、世界で 2 番目に多い信者数をもつ。世界には 16 億人以上のムスリムがいるといわれ、その多くはアジア・太平洋圏と中東・北アフリカ圏に住んでいる。アメリカの民間調査機関ピュー・リサーチ・センターによると、イスラーム教の人口増加は、世界人口の平均成長率より 2 倍近いスピードで増え、2020 年には世界の 4 分の 1 がムスリムとなり、2050 年までに 27 億 6000 万人を超えて、世界人口の 3 割に至り、2070 年にはキリスト教徒の数と肩を並べると予想している。

図1 世界のイスラーム人口（2009年推計）



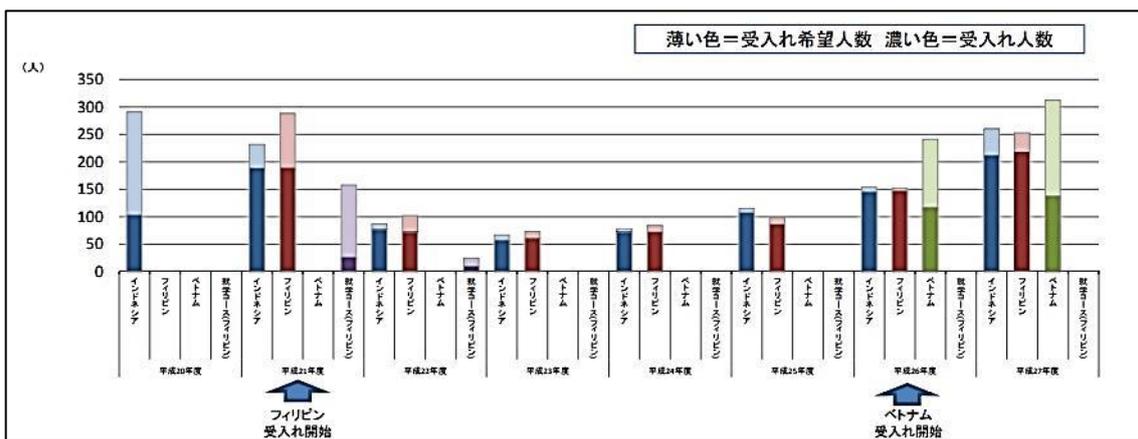
出典：本川裕『社会実情データ図録』（元資料：ピュー・リサーチ・センター）

(2) 滞日ムスリム人口

早稲田大学の店田廣文氏のレポート『イスラーム教徒の人口の推計 2013』によると、日本全国には外国人ムスリム 10 万人、日本人ムスリム 1 万人、計 11 万人が住み、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）とその周辺に 4 分の 3 が居住しているという。上位 6 カ国は①インドネシア②パキスタン③バングラデシュ④マレーシア⑤イラン⑥トルコの順となっている。

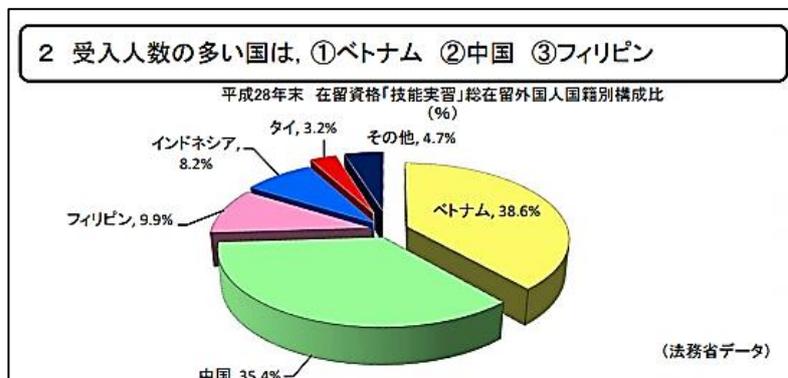
インドネシアに関していえば、日本・インドネシア経済連携協定(日本インドネシア EPA)の締結に基づいて、2008 年よりインドネシア看護師候補者・介護福祉士候補者の受け入れが始まった。また、近年は、アトム・ジャパン（公益財団法人国際人材育成機構）、JITCO（財団法人国際研修協力機構）、一般財団法人海外産業人材育成協会（HIDA）などを通じて、インドネシア人研修生・技能実習生を受け入れる企業が増えている。

図2 EPAに基づく介護福祉士候補者の受入れ人数の推移



出典：厚生労働省「第11回外国人介護人材の受入れの在り方に関する検討会資料」（平成28年8月5日）

図3 外国人技能実習生受入人数

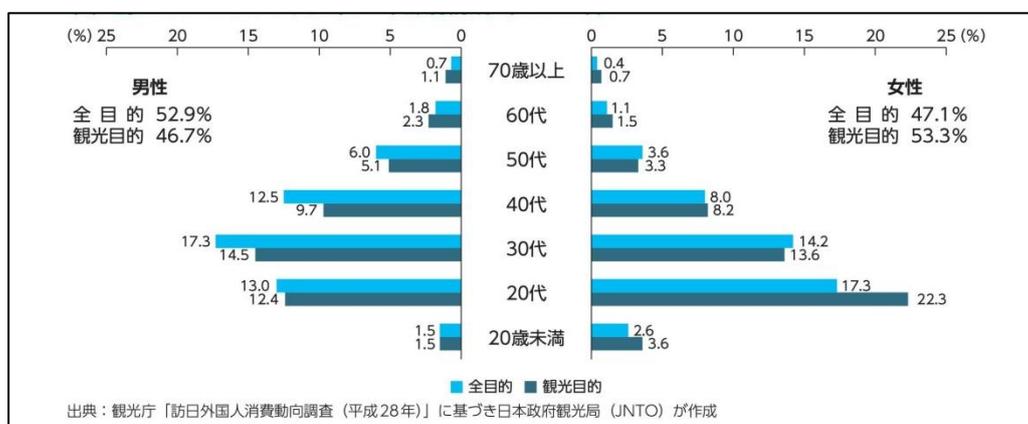


出典：平成28年 厚生労働省 技能実習の現状（実習生数・職種別推移・国別数）

(3) 訪日インドネシア人

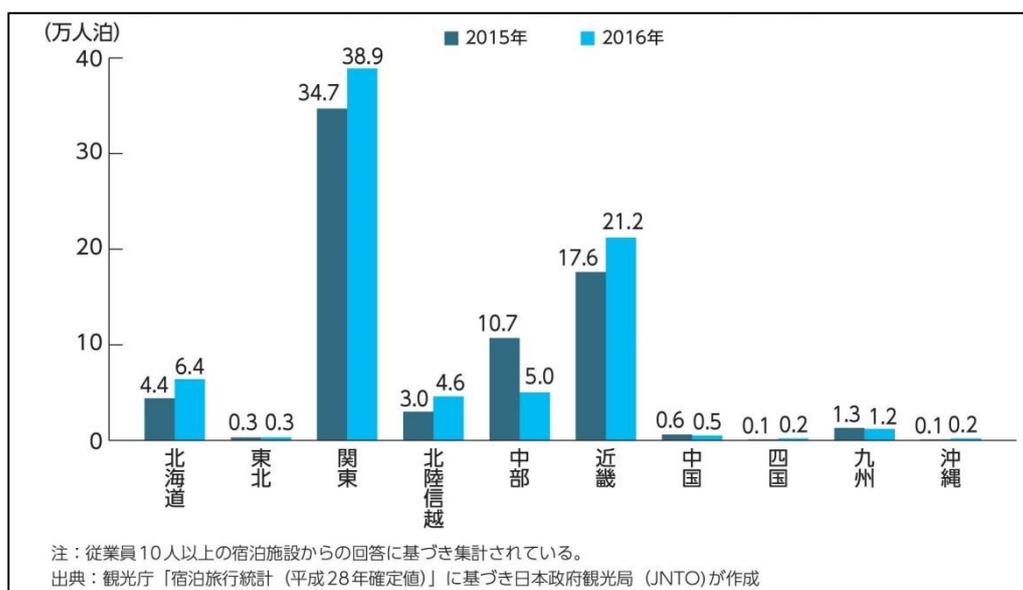
日本政府観光局（JNTO）によると、2017年に日本を訪れた外国人観光客は2,869万人を超えた。インドネシアは35万2,200人で過去最高を記録。前年比30%の伸びとなった。その理由として、JNTOは、旅行博でのPRのほか、ムスリム向けテレビ番組の取材支援を行い、ムスリムフレンドリーレストランや礼拝所など受入環境設備をPRしたムスリム層への訪日意欲の喚起を図ったことを挙げている。『JNTO 訪日旅行データハンドブック 2017（世界20市場）』には、訪日インドネシア人の動きがまとめて紹介されている。男女とも20代、30代が多く、約半数は観光を目的にしていることがわかる。地方別延べ宿泊者数も掲載されており、福岡県における1年間の延べ宿泊者数は6,570人であった。

図4 訪日インドネシア人の性・年齢別構成（2016年）



出典：JNTO 訪日旅行データハンドブック 2017（世界20市場）

図5 訪日インドネシア人の地方別延べ宿泊者数（2015～2016年）



出典：JNTO 訪日旅行データハンドブック 2017（世界20市場）

2. ムスリムおもてなしブーム

観光庁では2020年の東京オリンピックに向け、“2020年、訪日外国人旅行者を4,000万人”を目標に、訪日外国人旅行者の受入環境の整備を急いでいる。その重点項目のひとつに、ムスリムが宗教的・文化的な習慣に不便を感じることがなく、安心して快適に滞在できる環境整備を掲げる。ムスリム観光客の大幅な増加を見込み、全国的にもハラール認証⁽²⁾取得や礼拝所の整備が進んでいる。

⁽²⁾ ハラール認証とは、イスラーム市場向けの商品や製品（食品・医薬品・化粧品など）がハラールであることを保証する制度である。専門家が原材料、製造工程、流通に至るまで審査し、合格したものに対してマークが付与される。世界に200以上の認証機関があるといわれている。ハラール認証には国際的な基準が存在せず、国や認証団体によって認証基準が異なる。許可や届け出を必要としないため、制度をビジネスに利用しようとする認証団体も少なくない。

一方、イスラーム教徒が必要とするものを理解し、できる範囲で適切なサービスを提供することを“ムスリムフレンドリー”と呼ぶ。ハラール認証と同様に統一した基準がないため、日本国内で“ムスリムフレンドリー”の基準を統一しようとする動きが民間から起こっている。

図6 東南アジア諸国の主要ハラールロゴ



出典：株式会社日通総合研究所 WEB サイト「ロジスティクスレポート No.22」

日本政府をはじめ、ムスリム観光客誘致に積極的な都市の動きをまとめると以下の通りである。

(1) 観光庁

①ムスリムおもてなしガイドブックの作成

日本の飲食店、宿泊施設向けにイスラームの食事や礼拝に対する習慣などを記載した冊子を作成。

②訪日ムスリム外国人旅行者受入環境整備等促進事業

ムスリム観光客の受入に意欲のある3地域を支援した（2016年1～3月実施）。

■北アルプス日本海広域観光連携協議会

（富山県朝日町・新潟県糸魚川市・上越市・長野県小谷村・白馬村・大町市）

- ・マレーシア料理レシピ集
- ・ムスリム専用ホームページ



写真1：ムスリム専用ホームページ

<http://muslimproject.p2.weblife.me/index.html>

■飛騨高山ムスリムフレンドリープロジェクト

（岐阜県高山市・白川村）

- ・ムスリム旅行者用飛騨高山観光パンフレット
- ・ムスリムシール
- ・ピクトグラムシール

■伊勢鳥羽志摩インバウンド協議会（三重県鳥羽市）

- ・ムスリム旅行者受入の心得
- ・ムスリム旅行者向け料理ノウハウ集

図7 ピクトグラムシール



出典：高山市ホームページより

(2) 市区町村の動き

①東京都台東区

上野恩賜公園・アメヤ横丁・浅草寺を有する台東区は、御徒町モスク、ハラルメディア ジャパンと連携し、『TOKYO MAP for MUSLIMS』を作成。

ハラル認証機関である一般社団法人ジャパンハラルファンデーション⁽³⁾とタイアップして、台東区内の飲食店に対して、認証取得費用の一部を助成する「台東区ハラル認証取得助成事業」を実施している。

⁽³⁾御徒町の宗教法人アッサラームファンデーションとアッサラームマシッドが連携し、2015年、一般社団法人ジャパンハラルファンデーションを設立。

②京都市

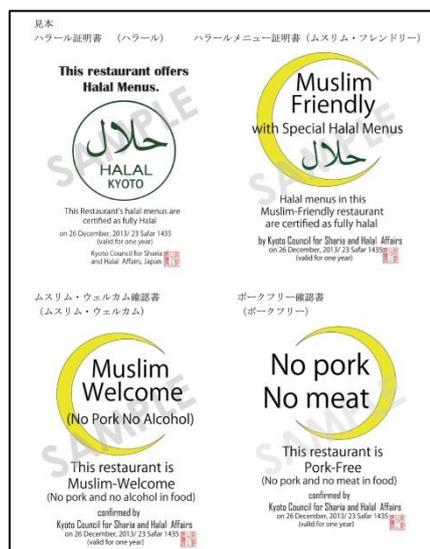
京都市および公益社団法人京都文化交流コンベンションビューローは、京都ハラール協議会⁽⁴⁾と提携し、独自のハラール認証体制の構築や、礼拝室の拡充など、ムスリムの受け入れ環境の整備に力を入れている。中東ドバイへの海外情報拠点の設置、オフィシャルWEBサイト『Muslim Friendly Kyoto』を通じて、ムスリム対応の情報発信を行っている。

⁽⁴⁾ 1987年、京都大学に留学していた大学院生と客員の研究者によって設立した宗教法人京都ムスリム協会が、特定非営利活動法人京都イスラーム文化協会とともに、2012年、京都ハラール協議会を立ち上げた。



写真 2：ゆばチーズ（京都・嵐山） 写真：筆者知人撮影

図 8 京都ハラール協議会ハラール認証マーク一覧



出典：京都市産業観光局ニュースリリース別添資料（平成 26 年 9 月 26 日）

③別府市

立命館アジア太平洋大学の留学生（留学生の 5 分の 1 がムスリム）や卒業生が中心となり、「別府市ムスリムフレンドリークラブ」を設立。別府市および一般社団法人別府市観光協会の職員がオブザーバーとして参画し、2015 年に『別府ムスリムマップ』を作成。その中には、素肌を人に見せられないムスリムのための貸し切りの家族風呂がある温泉施設や、同性の医師が診療する病院などムスリムへ配慮した細やかな情報が提供されている。

④その他

帯広、札幌、旭川、佐野、千葉、新宿、横浜、大阪などでも、ムスリムおもてなしマップが作られている。中国運輸局では「平成 29 年度 食事や礼拝、多様な宗教、信条等への対応人材育成等実証事業」として、中国経済連合会と連携し、『HIROSHIMA & WESTAN HONSHU MUSLIM - FRIENDRY』『HIROSHIMA & WESTAN HONSHU VEGITARIAN GUIDE』を作成した。

3. 福岡市と他都市との比較

これに対して、福岡市の現状はどうかを調べるため、ムスリム・レストラン検索 WEB サイト「ハラルグルメジャパン」に掲載されている情報をもとに、福岡市と主な他市区を比較した。

表 1 ハラルグルメジャパン掲載店・モスク・礼拝室の数（県別比較表）

※2018年3月21日現在

市区	人口(千人)	飲食店 (カッコ内は、そのうちインドなどエスニック店)	モスク	礼拝室	
東 京 23 区	港区	244	62 (30)	1	2
	新宿区	334	47 (8)	1	4
	台東区	292	36 (15)	2	8
	渋谷区	219	43 (22)	1	4
札幌市	1,952	24 (7)	1	7	
横浜市	3,724	16 (10)	1	1	
名古屋市	2,295	31 (25)	2	2	
大阪市	2,691	50 (27)	1	12	
京都市	1,475	39 (15)	1	12	
神戸市	1,537	28 (16)	1	3	
福岡市	1,538	11 (9)	1	2	

資料：筆者作成（ハラルグルメジャパン掲載店から抽出 飲食店には食品店も含む）

<考察>

飲食店の掲載は、民間 WEB 運営会社の判断に委ねられるため、正確な数字とは言い難いが、同じ人口規模をもつ京都市や神戸市に比べて、福岡市はハラール対応の飲食店や礼拝室の数が少ないことがわかる。

4. 福岡市の状況

関係者へのヒアリングや統計データをもとに、福岡市に“ムスリムおもてなしブーム”が起きない理由を探った。

(1) 福岡市内のモスク・礼拝室

ムスリムが静かに祈ることができる公の場所は、福岡市内に 2 か所⁽⁵⁾。

⁽⁵⁾ ハラルグルメジャパンには、礼拝室として福岡市内のホテルも掲載されていたが、ムスリムからの要望があれば部屋を貸し出す仕組みになっているため、今回取材は行わなかった。

■福岡モスク（福岡マシッド アンヌール イスラミックセンター）

福岡市博多区箱崎 3 - 2 - 18 （JR 箱崎駅より徒歩 5 分）

福岡モスクの建設は、アメリカ同時多発テロの時期にちょうど重なり、地元住民の理解を得るために苦勞した末、2009 年 3 月に竣工。開堂後は定期的に日本人を招いて見学会や食事会を行うなど、広く一般に開放している。

モスクはムスリムの心の拠り所である。祈りの場だけでなく、ムスリム・コミュニティの交流の場・情報交換の場、祭りや婚姻・葬儀の場にもなる。国の垣根を超え、日本人を含め、多くのイスラーム教徒が集う。



写真 3：福岡モスク

出典／写真（左）：福岡モスク WEB サイト、写真（右）：筆者知人撮影

■福岡空港国際線礼拝室／福岡空港国際線旅客ターミナルビル 4F

2014年、福岡空港ビルディング株式会社が、空港を利用するムスリムのために設置した。祈りの前に手足を水で清める小浄施設も備えている。

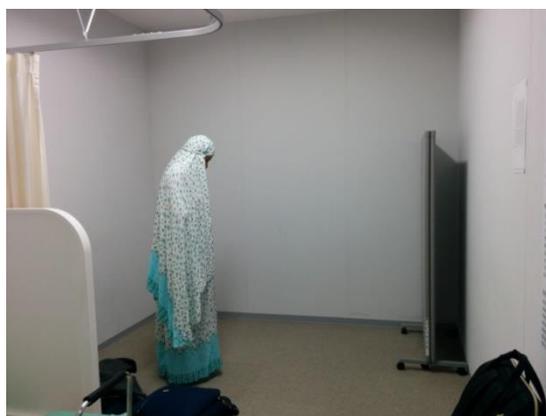


写真4：福岡空港国際線ターミナル礼拝室と礼拝風景

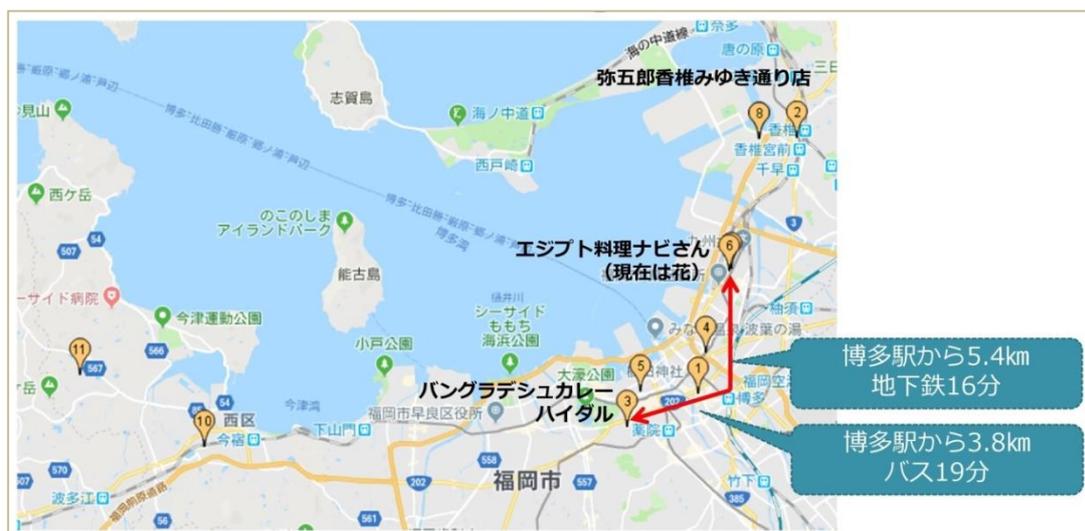
写真／筆者撮影

<考察>

福岡モスク・礼拝室ともに都心部より遠く、買い物などのついでに気軽に立ち寄り、礼拝できる施設は、福岡都心部に存在しない。毎日5回の礼拝が義務づけられているムスリムにとって、たいへん不便だと思われる。

(2) 福岡市内のハラール対応の飲食店

図9 福岡のハラール対応の飲食店 MAP



資料：筆者作成（店舗所在地を google マップに落とし込んで作成）



写真 5 : エジプト料理店 花 HANA

出典 : 花 HANA Instagram

<考察>

ハラールグルメジャパンに掲載されている 11 店舗のうち、9 店舗はインド・トルコ・エジプト・バングラデシュなど、外国人ムスリムオーナーが経営するエスニック専門店。残り 2 店舗は日本料理店 1 店舗、ハラール食品販売店 1 店舗となっている。

九州大学の留学生が多く住む九州大学箱崎キャンパス跡地や九州大学国際交流会館（香椎浜）周辺、九州大学伊都キャンパス周辺に多く点在。ムスリム対応の飲食店の多くが都心部より離れており、ムスリムは足を運びづらい。

エスニック料理以外の店がほとんど掲載されておらず、WEB サイトが提供する情報にかなりの偏りが生じているように思える。

(3) 福岡市のムスリム人口調査

福岡市のムスリム人口数が“ムスリムおもてなしブーム”が起きない原因と関係があるのではないかと考え、ムスリムが福岡市に何人住んでいるのか調査した。福岡市住民台帳をもとに、国別人口を抽出し、ピュー・リサーチ・センターが出しているムスリム人口比率を掛けて、算出した（小数点以下切り捨て）。同じ方法で九州大学のムスリム留学生人口、福岡県内のムスリム人口もまとめて表にした。

表 2 福岡市のムスリム人口（推計）

福岡市	平成 11（1999）年 9 月末			平成 28（2016）年 9 月末		
	人口	ムスリム比率	算出後	人口	ムスリム比率	算出後
インドネシア	149 人	88%	131 人	392 人	88%	344 人
パキスタン	19 人	96%	18 人	63 人	96%	60 人
インド	48 人	13%	6 人	207 人	13%	26 人
バングラデシュ	54 人	90%	48 人	201 人	90%	180 人
イラン	34 人	99%	33 人	33 人	99%	32 人

マレーシア	58人	60%	34人	124人	60%	74人
エジプト	41人	95%	38人	134人	95%	127人
その他			148人			391人
合計			456人			1234人

資料：著者作成（参考：市民局総務部政課 国籍等別外国人数）

表3 九州大学のムスリム人口（推計）

九州大学	平成23（2011）年5月			平成29（2017）年5月		
	人口	ムスリム比率	算出後	人口	ムスリム比率	算出後
インドネシア	105人	88%	92人	144人	88%	126人
パキスタン	0人	96%	0人	3人	96%	2人
インド	10人	13%	1人	28人	13%	3人
バングラデシュ	20人	90%	18人	47人	90%	42人
イラン	0人	99%	0人	12人	99%	11人
マレーシア	46人	60%	27人	32人	60%	19人
エジプト	22人	95%	20人	41人	95%	38人
その他			37人			38人
合計			195人			279人

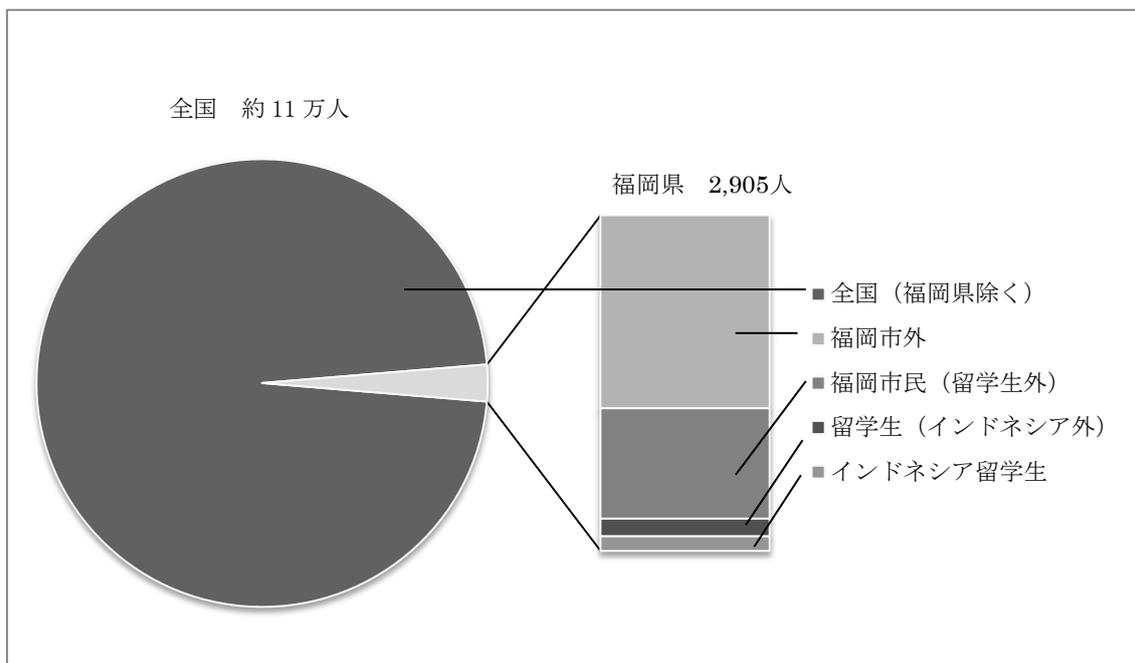
資料：著者作成（参考：九州大学 WEB サイト 九州大学外国人留学生一覧表）

表4 福岡県のムスリム人口（推計）

福岡県	平成29（2017）年6月		
国別	総人口	ムスリム比率	算出後
インドネシア	996人	88%	876人
パキスタン	210人	96%	201人
インド	388人	13%	50人
バングラデシュ	347人	90%	312人
イラン	52人	99%	51人
マレーシア	204人	60%	122人
エジプト	177人	95%	168人
その他			1125人
合計			2905人

資料：著者作成（参考：法務省在留外国人統計／都道府県別 国籍・地域別 在留外国人）

図 10 福岡市と全国のムスリム人口推計（まとめ）



資料：筆者作成

<考察>

福岡市には 1,234 人のムスリムが住んでおり、そのうち約 22.6%が九州大学ムスリム留学生、また九州大学ムスリム留学生のうちインドネシア人が約 45%であることがわかった。九州大学の留学生は伊都キャンパス周辺に多く住んでおり、都心部での福岡市民との接触は少ないのではないかと思われる。

福岡市における 17 年間のムスリム人口の伸びは 2.7 倍。インドネシア、インド、バングラデシュ、マレーシア、エジプトのムスリムが増えていることがわかる。

(4) ムスリムに対する福岡市民の意識調査

福岡市に“ムスリムおもてなしブーム”が起きない背景に、福岡市民の意識が関係しているのかどうかをアンケート調査した。福岡市民がムスリムに対してどのような感情を抱いているのか、イスラーム過激派などのテレビ報道の影響があるのかを探った。

<調査について>

- ・ 回答数：成人男女 56 人（男性 16 人、女性 40 人）
- ・ ムスリムの親密度：ムスリムの知り合いがいる 20 人、いない 36 人
- ・ 調査期間：2017 年 11 月～12 月
- ・ 調査方法：街頭及び訪問による記入

Q. あなたが知っているイスラーム教の習慣や関連する用語を教えてください。

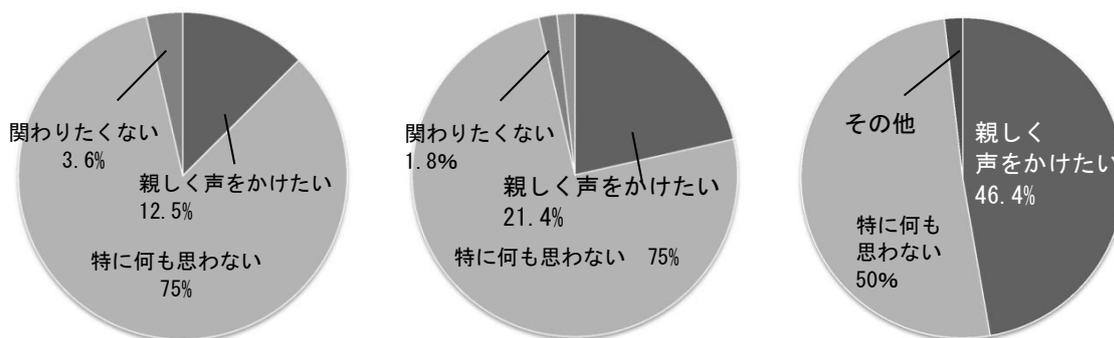
※複数回答可

- A. 豚肉・アルコールを摂取してはいけない・・・ 51 (99.4%)
 女性は髪や肌を隠さないといけない・・・ 44 (81.5%)
 断食月（ラマダン）がある・・・ 45 (83.3%)
 1日のお祈りの回数が決まっている・・・ 33 (61.1%)
 メッカ（マッカ）・・・ 31 (57.4%)
 モスク・・・ 34 (63.0%)
 コーラン・・・ 35 (64.8%)
 マホメッド・・・ 24 (44.0%)

Q. あなたはムスリムをどう思っていますか。

図 11 接触回数によるムスリムに対する福岡市民の意識変化

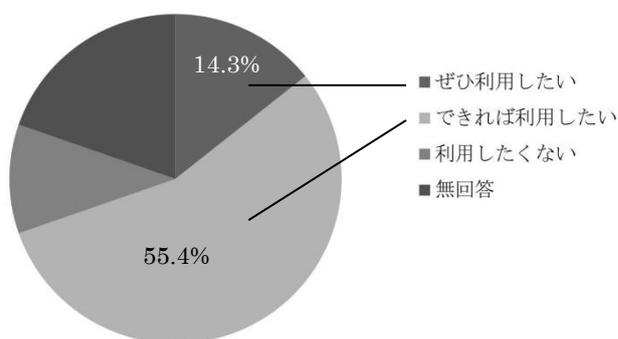
街中でムスリムを見かけたらど あなたの近所にムスリムがすん ムスリムの人と職場が一緒だっ
 のように思いますか でのいたらどのように思いますか たらどのように思いますか



資料：筆者作成

Q. イスラーム教を勉強したり、ムスリムと交流できたりする機会があれば利用したいと思いますか？

図 12 ムスリム理解の勉強会などへの福岡市民の参加意志



資料：筆者作成

Q. 「ぜひ利用したい／できれば利用したい」と答えた方にお伺いします。

どのような機会を利用したいですか？ ※複数回答可

- A. イスラーム教や文化を知る勉強会・・・・・・・・・・・・・・・・ 16 (31.4%)
- イスラームの文化を実際に体験できるワークショップ・・・・ 13 (25.5%)
- ムスリムとの交流会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 (23.5%)
- 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17 (33.0%)

<考察>

アンケートを見る限りでは、ムスリムに対する福岡市民のヘイト感情はないと思われる。周りにムスリムがいなくても、イスラームに対する知識はある程度あり、年齢・性別を問わず、チャンスがあれば、ムスリムを理解する勉強会・セミナー・交流会に参加したいという回答が多かった。ムスリムとの接触回数が増えるほど、より親しい感情が生まれるという結果が出ている。

(5) 行政へのヒアリング

福岡におけるムスリム対応について、市と県のインバウンド担当部署に対してヒアリングを行った。

■福岡市経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課

現在、中国や韓国からの観光客が増え、その対応に追われている。限られた予算のなかでは、シンガポールなど直行便が就航している国が優先され、直行便のないインドネシアやマレーシアなどは、どうしても後回しになってしまう。

2013年、東南アジア各国のビザ緩和に向けて、福岡モスクとタイアップし、『ムスリムフレンドリー・レストランガイド』を11万部発行した。現在は修正増し刷りをしていない。その理由について、担当者は「今後、ムスリム訪問者が増えることは承知しているが、ムスリムの行動がつかめず、どこにニーズがあり、どこに配っていいのかわからない」と話している。



写真6：ムスリムフレンドリー・レストランガイド

出典：一般社団法人メイドインジャパン・ハラール支援協議会 Facebook

■福岡県国際局地域課東南アジア係

2015年に福岡県ムスリム施策推進委員会を立ち上げた。福岡県を事務局として、福岡県観光連盟、ホテル・旅館業界、飲食業界・観光業界で構成している。ムスリムセミナーの実施、ムスリム受け入れに関する出前講座の開催、ムスリムに対する先進的な取り組みを行う自治体への視察調査などを行っている。

2016年度は、福岡モスクに集うムスリム174名に対し、礼拝室設置の希望場所、好む料理、食事に使う予算など、アンケート調査を行った。

2017年度は、ムスリムの受け入れに前向きな4つの地域を重点取組地域として選定し、ムスリムの受け入れに関する講演や個別の相談会を開催した。そして、ムスリムフレンドリーな受け入れが可能となった店舗を、ムスリムがよく見るWEBサイトで情報発信する予定である。

表5 2017年度 福岡県ムスリム受け入れ推進事業 重点取組地域

1	福岡市東区 糸島市	福岡市東区には福岡モスクが位置している 糸島市は農産物・海産物が豊富で、九州大学伊都キャンパスに近い
2	福岡県久留米市	インドネシアの首都ジャカルタに、筑後うどんのアンテナショップを展開中
3	朝倉市・うきは市	原鶴温泉やフルーツ狩りなど観光資源をもっている
4	宗像市・福津市	ユネスコ世界文化遺産に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が登録され、世界から注目を浴びている

資料：福岡県へのヒアリングをもとに著者作成

「豚肉や豚由来の食材を使わないだけでいいのか、みりんや醤油まで除くのか、人によって個人差があるため、どこまでの対応が必要なのか難しい。県の取組みに参加いただいている事業者様には、こちらが対応できることを情報開示し、あとはムスリムに判断してもらいましょうと話をしている。受け入れ側の事業者様の負担が大きくなるように、できることからの対応をお願いしている。」(担当者)

(6) 関係者へのヒアリング

■ヌール・サーディ氏（リビア／福岡市在住／福岡モスクの専任指導者）

金曜日の合同礼拝の導師、説法、モスク行事の企画・運営のほか、イスラーム教理解促進のための講演やビジターへの対応などを行っている。日本人はどの都市でも親切。保健、教育など公共サービスが充実しており、ムスリムは日本に来るのが好きだ。

2020年の東京オリンピックに向けて、ハラール・ショップや礼拝室の整備が進むことは大歓迎である。

■中村翁團氏（日本人ムスリム／男性／茶道家／福岡市在住）

ハラールに対する考え方は国、宗派、個人の心情によってずいぶん異なり、世界的に統一された基準はない。アルコールに関しても、聖典には「酔わせるものを摂ってはならない」と書かれているが、醤油に入っている微量のアルコールがいけないとはどこにも書かれてはいない。日本人は神経質すぎる。ムスリム・コミュニティでは SNS が発達し、ハラールに関する情報交換が活発である。食べられるか食べられないかは自分でチェックし、自分の身は自分で守る術を心得ている。

■アベデル・ラフマン・エルファフラニ氏

（サウジアラビア／男性／留学生／九州大学ムスリム学生会元秘書）

九州大学ムスリム学生会は 25 年前に設立された。メンバーは約 200 人。宗教生活に関するアドバイス、福岡市内のハラール情報の提供などを行う。毎年、大学のキャンパス内などでイスラーム文化を紹介するイベント「イスラームウイーク」を開催している。今年（2017 年）、大学外で初めて「福岡ハラールフェスタ 2017」を行った。

日本人はイスラームのことをよく知らない。イベントを通してイスラームの教えや祖国のことをどんどん知ってもらいたい。日本のマスコミはイスラームに対してネガティブな報道をすることが多く、良い気持ちがない。イスラームの教えには、「うそをついてはいけない、家族を大事にしなければならない」など、日本人の考えと共通するところが多い。直接会って話をすると誤解も解け、仲良くなれる。

■ラハマワティ・ヒダヤ氏（インドネシア／女性／社会人／東京都在住）

ビザが緩和され、インドネシアから日本へ旅行する人が増えている。滞在日数は 10 日～2 週間。飛行機で東京もしくは大阪に入り、福岡へは、訪日外国人向けのジャパン・レール・パスを利用して新幹線で行くケースが多い。福岡に訪れる理由の多くは、ビジネス・学会・知人への訪問など。個人旅行の場合、博多は長崎行きの中継地点であり、熊本や鹿児島へ行く場合は博多を素通りする。福岡にはインスタ映えするような珍しい観光名所がなく、人気がない。

福岡市は食べものおいしい街だといわれるが、ムスリムには食べられないものが多く、興味が湧かない。インスタント食品などを自国から持参する人も多い。

福岡での滞在は大半が 1 泊 2 日。博多駅・天神でぶらぶら買い物することが多い。昼の礼拝は一旦ホテルに戻るか、デパートの非常階段やフリースペースなどを利用して行っている。

■トリ・ウラニンシ氏（インドネシア／女性／社会人／福岡市在住）

礼拝室が福岡空港国際ターミナルにあることは知っているが、国際線は所用があるときにしか行かないので利用しづらい。国内線に作ってほしかった。天神など街のなかで祈る

ときは、もっぱら授乳室を利用している。女性だけなので安心である。大丸札幌店やソウルにも礼拝室があるのに、なぜ福岡にはないのか。

福岡のハラール情報を WEB で検索すると、インドやパキスタン料理ばかり出てくる。大阪で食べたハラールラーメンはおいしかった。福岡でもこんな料理を食べたい。

■グギ氏

(ウズベキスタン／女性／別府市在住／大学を卒業後、2018年4月東京の企業に就職予定)

ウズベキスタンに帰国するため、福岡空港国際線ターミナルを訪れた。エレベーターのなかで、礼拝室のサインを偶然に見つけ、とても嬉しかった。立命館アジア太平洋大学にはムスリムの留学生が多く、食堂にはハラールメニューがある。礼拝室も備えられ、生活に不便はなかった。街のなかにもっと洋食や日本食のハラール・レストランが増えるといい。

5. 考察（まとめ）

他都市の事例からムスリム対応の成功のポイントを3つ挙げたい。

- 日本の歴史や文化を感じられる街や、風光明媚でインスタ映えする観光名所がある地域からハラール対応が進んでいる。
- 官・民（飲食店やホテルなど）・モスクが連携し、街ぐるみで取り組んでいる。
- ハラール対応を推進するハラール認証団体・コンサルティング会社、全国のハラール&ベジタリアングルメ情報を WEB やパンフレットなどで紹介する民間企業が台頭。行政や飲食店への積極的なアプローチが、この一連の動きに拍車をかけている。



写真7：民間企業が作成した幟（大阪にて） 写真：筆者知人撮影

<福岡市のムスリム対応が進んでいない原因を考察>

- 福岡市のムスリム人口が少ないことから、ムスリム対応の必要性を市民が感じていない。受け入れ整備の遅れが、市外や海外のムスリムにとって、福岡市は魅力のない街と映り（ムスリム対応店舗や礼拝室の情報などが少ないため）、ムスリムが福岡市に訪れようと思わない一因となっているのではないかと。
- 福岡市にムスリムの需要増加を見越した街づくり戦略がない。そのためムスリムから積極的に意見を吸い上げたり、協働でムスリム対応を推進したりするパワーに欠けている。

6. 在福ムスリムへのアンケート調査

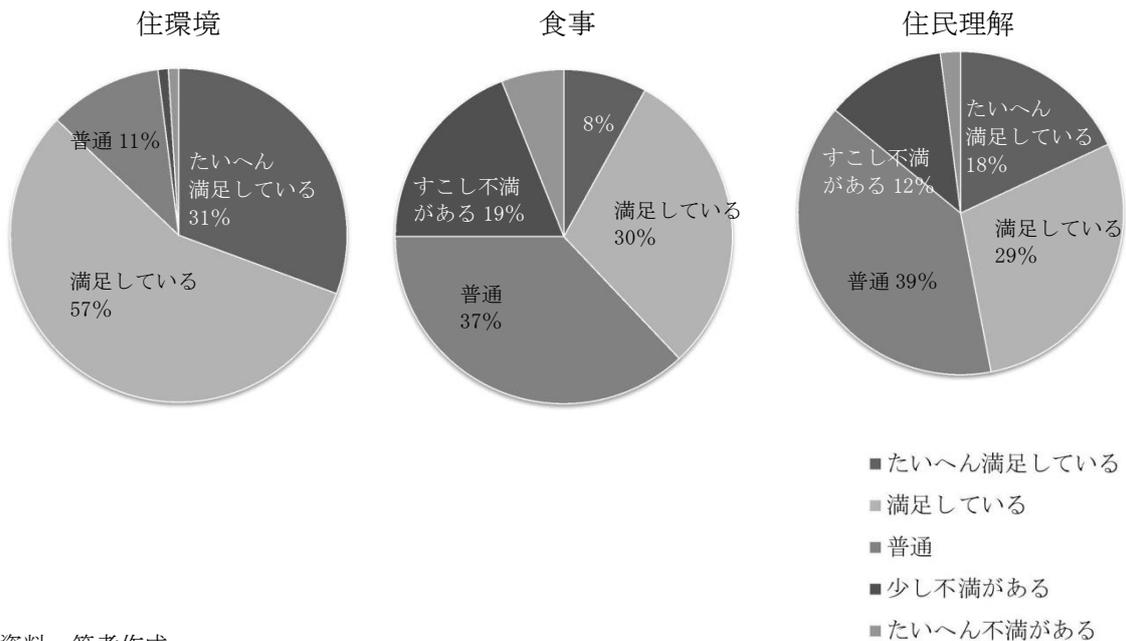
ではムスリムと楽しく暮らしやすい街づくりを進めるために、福岡市在住のムスリムが福岡市に対し、どのくらい満足し、どのような点を改善してもらいたいと思っているのかをアンケート調査した。

<調査について>

- ・回答数：100（男性 58、女性 34、無記入 8）
- ・国別：インドネシア 31、エジプト 13、日本 11、マレーシア 10、その他 35
- ・職業：学生 52、経営者・会社員 16 教員・研究者 11 専業主婦 7 その他 8、無記入 6
- ・調査期間：2017年11月～12月
- ・調査方法：福岡モスク担当者へのアンケート及びWEBアンケート

Q. 住民としての満足度は？

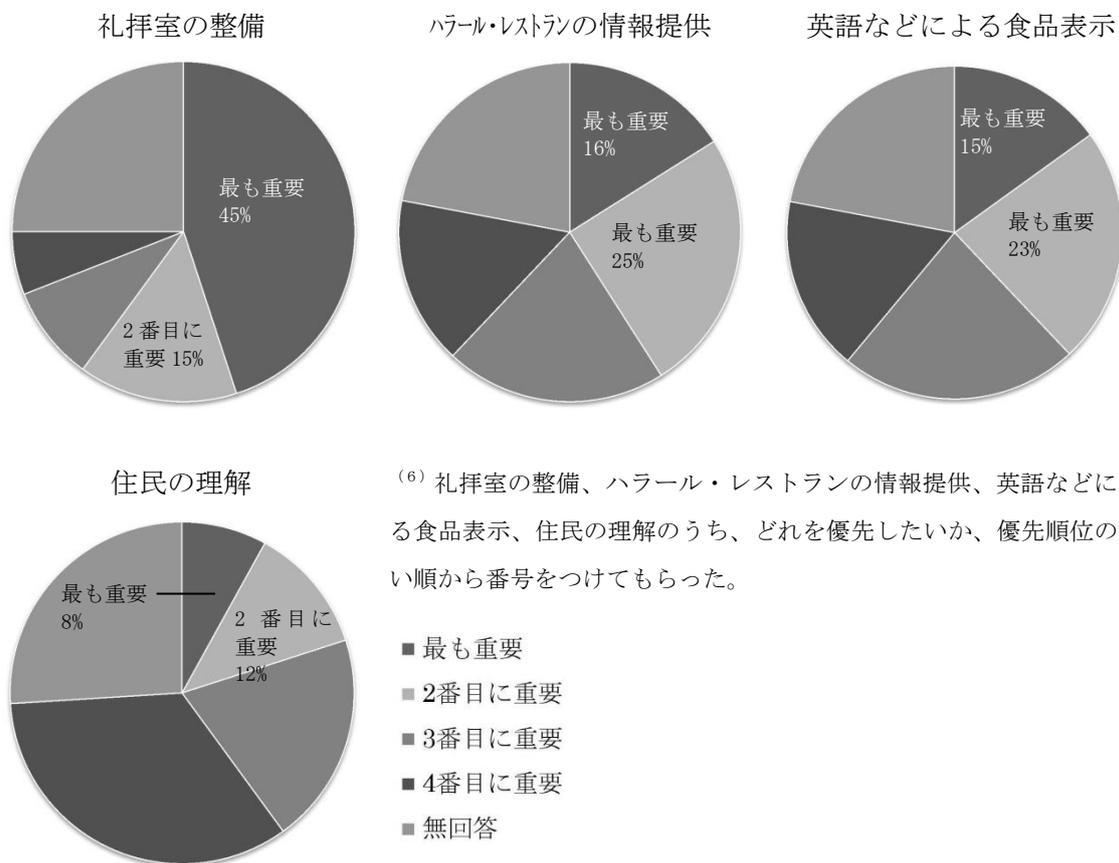
図13 福岡におけるムスリムの生活満足度



資料：筆者作成

Q. 福岡市がムスリムにとって、もっと暮らしやすくなるために、どのような点が改善されればよいと思いますか。あなたにとっての優先順位を数字でランクづけしてください。⁽⁶⁾

図14 ムスリムからの要望の優先順位



資料：筆者作成

Q. 礼拝室を設置するならば、どこにあればいいと思いますか。具体的に場所を挙げてください。

A. 博多駅、天神駅、空港、公共施設、大型ショッピングモール、デパート、博物館、アミューズメントパーク、レストラン、公園、伊都キャンパスなど。

Q. ムスリムからの要望

A.

- ・お祈りの場所を増やしてほしい。
- ・ハラール・ジャパニーズ・レストランを提供してほしい。
- ・福岡にお祭りがある時、ハラール屋台が欲しい。
- ・食品のラベルなどに（英語で）成分表示をしてほしい。

- ・学校での英語力向上。
- ・日本人コミュニティとイスラーム問題について議論することで、誤解をはっきりさせ、相互理解を深める必要がある。
- ・地元の人々との障壁を減らすためのフレンドリーな場所が欲しい。

<考察>

ムスリム向けのアンケートから、住環境については、88%のムスリムが「たいへん満足している、満足している」と答え、住民との関わりで「たいへん満足している、満足している」が47%であることから、日本人からムスリムに対する個人的な差別や偏見などは、このアンケートでは見受けられない。食事に関しては「たいへん満足している、満足している、普通」まで合わせる75%になるため、日本での食生活は、ムスリムなりに対応していることがうかがえる。

ムスリムからの要望は、高い順に①礼拝室の整備②ハラール・レストランの情報提供③英語などによる食品表示④住民の理解となっている。特に、礼拝室の設置は「最も重要、2番目に重要」をあわせて、60%に上る。

7. 福岡への提言

グローバル経済のビジネスパートナーとして、日本の“超高齢社会”(65歳以上が21%を超える社会)を支える大切なパートナーとして、アジア諸国の人々(ムスリムを含む)が、これからも住民として福岡市に順調に増えていくと想定される。ならば、まずムスリムを福岡市民としてとらえ、彼らの要望を取り入れて、暮らしやすい、楽しい街に整備することが、長い目で見て、ムスリムが訪れやすい福岡市となるのではないだろうか。ムスリムに対して配慮された街づくりが望まれる。

そこで、ヒアリングやアンケートをもとに、ムスリムも安心して住め、来て楽しめる魅力のある福岡市の街づくりを提案する。その主な内容は下記の通りである。

- (1) 礼拝室の整備
- (2) 食の多文化交流施設の整備
- (3) ムスリムが街を気軽に回遊できる仕組みづくり
- (4) 礼拝室を拠点とした<食・体験、文化、観光>の魅力づくり

(1) 礼拝室の整備

福岡空港国内線と都心部4ヶ所の計5か所に礼拝室の設置を提案したい。キプラ(メッカの方向を示す表示板)を設置したカーペット敷のスペースを設ける。男女別、小浄施設も設けたほうがベターではあるが、そこまではムスリム側も求めているであろう。八女特産の量など日本的な演出があれば、より世界からの注目度がアップするであろう。

表6 礼拝室の設置場所（案）

1	福岡市役所 1階	ムスリムが住民として公的サービスを受けるスペースとして設置 アクロス福岡や家電量販店に近い
2	大丸福岡天神店 東館エルガーラ 5階	免税店が入居、対面のデパートにも免税店がある 家電量販店やディスカウントストアに近い 大丸札幌店には礼拝室設置のノウハウがある
3	キャナルシティ博多 サウスビル 4F	大型免税店が入居 日本人・外国人を問わず、人気の観光スポットである
4	JR 博多駅博多口 アミュプラザ 博多 2階 中央エレベーター前	九州の玄関口 福岡空港や天神に地下鉄でつながっている バスターミナルにも近い
5	福岡空港 国内線ターミナル	九州の空の玄関口 日本の各地やアジアとつながっている

資料：筆者作成

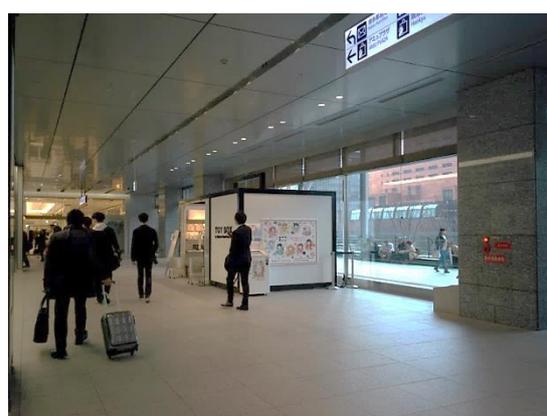


写真8（左）：福岡市役所 1階 写真9(右)：JR博多駅博多口アミュプラザ博多 2階 写真：筆者撮影

(2) 食の多文化交流拠点の整備

シンガポールのホーカーズ、タイのクーポン食堂のようなフードコートを、サンセルコ地下食堂街に整備し、ムスリムをはじめとする外国人観光客が、日本人と同じテーブルで博多の味やムスリムのふるさとの味をともに楽しむ、新たな「食」の観光スポットとする。料理はすべてポークフリー・アルコールフリー。できれば国産ハラール肉・国産ハラール醤油などを使用。英語での食品表示つきメニューを常備し、ムスリムに配慮する。

整備にあたっては、福岡在住のムスリム社会人や留学生たちの声を反映し、福岡にふさわしい“ムスリムフレンドリー・スタイル”を確立することが望まれる。

<概要>

- 名称：安くて楽しい福岡アジア食堂 「HAKATA ASIAN YATAI MURA」
- コンセプト：ムスリムと食事をしながら、世界の多様な文化を味わえる場所
- 場所：サンセルコ地下1階食堂街（福岡市中央区渡辺通）
- 内装デザイン：博多の屋台が並んでいるイメージ
- 店舗数：10店舗程度
- メニュー：博多を代表するグルメ（シーフード料理、辛子明太子、水炊き、豚骨以外のラーメン、もつ鍋など）、アジア各国を代表するグルメ（ミーゴレン、チキンライス、ビリヤニなど）、各国のスイーツなど
- 世界各国の調味料を備えつけ、青唐辛子のトッピングなどをサービスで提供
- 英語でのメニュー、食材表示を義務づける
- 支払：外貨対応のプリペイドカード
- 価格：一品 1,000 円以下、単品から購入可能とする
- 併設：礼拝室、国産ハラール商品の販売コーナー



写真 10 シンガポール チャンギ国際空港 第3ターミナルフードコート 写真：筆者撮影

<施設を整備するメリット>

- 福岡市民とムスリムが食を通じて出会える場
- ムスリム向けの新たな観光名所として、全世界のムスリム市場へ PR
- 渡辺通周辺の地域活性化
- 新たなハラール料理・商品開発のマーケティングの場

(3) ムスリムが街を気軽に回遊できる仕組みづくり

5つの礼拝室、食の多文化交流拠点を、地図に落とし込むと図15のようになる。

都心部の5つの礼拝室を100円循環バスの重要ポイントに配置し、食の多文化交流拠点を

渡辺通り四ッ角に配置することで、都心 100 円バス区間を広く網羅することができる。これにより福岡市に住むムスリムだけでなく、短期滞在のムスリム観光客も都心 100 円バスの区間内で自由に活動できる仕組みができあがる。

図 15 都心 100 円バス区間と礼拝室・食の多文化交流施設の配置図



資料：筆者作成（作成にあたっては、google マップを利用）

(4) 礼拝室を拠点とした<食・体験、文化、観光>の魅力づくり

礼拝室、食の多文化交流拠点の周辺からムスリムへの理解を広げ、ムスリムに配慮したおもてなし（ハラール対応メニューの用意、メニューや食材の英語表示ほか）ができる“ムスリムフレンドリー”な場所を増やしていく。また<食・体験、文化、観光>の 4 つをキーワードに、礼拝室の周辺でムスリムが短時間で福岡市の魅力を楽しめるプログラムを整備し、ムスリムを街に呼び込む仕組みをつくる。

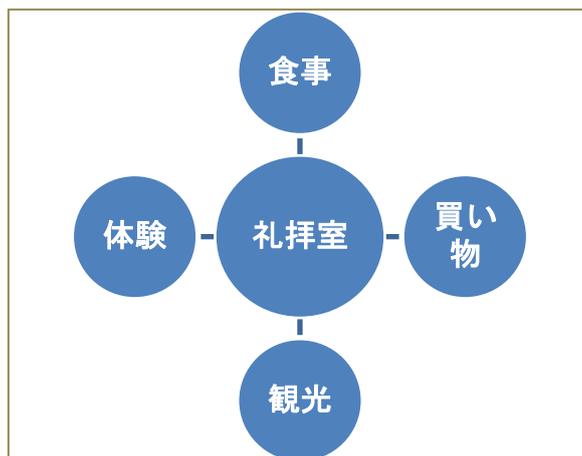
礼拝室、食の多文化交流拠点礼はこれらの情報発信基地としての役割をもち、パンフレットなどムスリムに必要な情報を整備しておく。

(例) 博多の下町を楽しむコース

- ・ 礼拝室：チャンネルシティ博多
- ・ 食 事：川端ぜんざい⁽⁷⁾
- ・ 買い物：兜キャップ・にわか面帽子
- ・ 体 験：博多町家ふるさと館、博多伝統工芸館
- ・ 観 光：中洲ネオンサインと屋台風景、フクロウカフェ、櫛田神社

(7) “日本一甘い”が詠い文句の「川端ぜんざい」は、砂糖、小豆、水稲もち米しか使っておらず、福岡市を代表するハラルメニューのひとつとして十分に PR できる魅力をもっていると筆者は考える。インドネシアにも小豆を使った同じようなスイーツがある。

図 16 礼拝室と 4 つのキーワード 関係図



資料：筆者作成

図 17 礼拝室を拠点とした福岡市の魅力の拡大戦略（イメージ図）



資料：筆者作成（作成にあたっては、google マップを利用）

8. 結論

福岡市がムスリムに対する環境整備をするにあたっては、ハラール認証もしくはハラールに対応する店舗を無計画に増やしていくのではなく、福岡都心部に整備を絞り、礼拝室を計画的に配置し、各礼拝室を拠点として、積極的に“ムスリムフレンドリー”のエリアを広げていくべきである。

その場合、ムスリムと関係の深いNPOやアジアのムスリム留学生を上手に活用してほしい。“ムスリム×まちづくりワークショップ（自分の店舗で何をすればムスリムフレンドリーになれるのかなどを話し合う）”などを開催し、市民がムスリムと触れ合う機会をもつことで、自分たちの街の魅力をもう一度、外の視点から見直すことが大事である。ムスリムと市民が親密にふれ合い、お互いの接点を見つけ、彼らが福岡市をより好きになってくれれば、彼らは必ずや英語や母国語で、SNSを通じて、福岡市の魅力を世界に伝えてくれることだろう。

アジアのムスリム留学生は、宗教上、食べ物などに制約があるだけで、アジアからやってきた普通の若者たちである。行政や商店街と連携して、彼らのアドバイスや新しい発想を活かし、一緒に楽しめる街を作っていくことこそ、多文化共生の街づくりといえるのではないか。

さいごに

今回は街づくりにテーマを絞ったため、ムスリムの土葬問題や自然災害時のムスリム対応などに触れることができなかった。“国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく”多文化共生社会が実現するまでには、これからもさまざまな課題にぶつかっていくことであろう。そのときに、福岡に住む外国人も、住民のひとりとして積極的に街づくりに参画し、ともに課題を乗り越えていくことが肝要だと、研究を進めながらつくづく感じた。

筆者個人としては、市民局内に多文化共生部門をつくり、NPOやNGOとの協力のもとに多文化共生を推進するのが良いと考えているが、このテーマについては、過去に市民研究員の先輩方が論文を書かれているのでご一読いただきたい。

イギリス発のグローバル情報マガジン「MONOCLE（モノクル）」が発表した“2016年世界の住みやすい街ランキング”で、福岡市は世界7位にランクインされた。ここにムスリムも住みやすい街であるイメージをプラスすることで、より福岡のイメージをあげることができるだろう。オリンピックに向けた“ムスリムおもてなしブーム”に便乗するのではなく、地に足をつけて、ムスリムという市民とともに、その受け入れ整備を着実にしていけば、おのずとムスリムが“住んで、来て、楽しく”市民とも仲良く暮らせる街になるであろう。本物の国際交流都市として認められる日が一日も早く訪れることを願っている。

<引用・参考文献>

- (1) クリスマントゥディ「イスラム教人口、平均の2倍のスピードで増加 2100年には世界最大に」
<http://www.christiantoday.co.jp/articles/23380/20170307/islam-world-largest-religion-2100.htm>
- (2) 本川裕『社会実情データ図録』 <http://imemgs.com/document/20150714mij.pdf>
- (3) 店田 廣文『イスラーム教徒人口の推計 2013年』 <http://imemgs.com/document/20150714mij.pdf>
- (3) 厚生労働省「第11回外国人介護人材の受入れの在り方に関する検討会資料」
<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000135078.pdf>
- (4) 厚生労働省 技能実習の現状（実習生数・職種別推移・国別数）
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyouounouryokukaihatsukyoku/000174642.pdf>
- (5) 株式会社日通総合研究所「ロジスティクスレポート No.22」
<https://www.nittsu-soken.co.jp/report/lreport22>
- (6) 観光庁 ムスリム対応に関する取り組みについて
http://www.mlit.go.jp/kankocho/page08_000088.html
- (7) JNTO 平成30年1月報道発表資料
https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/180116_monthly.pdf
- (8) JNTO 訪日旅行データハンドブック 2017（世界20市場）
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/jnto_databook_2017.pdf
- (9) ハラルメディアジャパン観光ガイド（日本各地のおもてなしマップ一覧）
<http://www.halalmedia.jp/ja/tourist-guide/>
- (10) ハラルグルメジャパン - ムスリム向けグルメ検索サイト
<https://www.halalgourmet.jp/ja>



氏名：弥栄睦子（みえ ちかこ）

所属先：ミーズプロジェクト代表

（広報アドバイザー・ITコーディネータ）

NPO法人トゥマンハティふくおか 代表理事

略歴：西南学院大学文学部国際文化学科（現：国際文化学部）卒。

株式会社リクルート九州支社、広告制作プロダクション、広告代理店を経て、2000年、ミーズプロジェクト設立。1997年にインドネシア

留学生と縁ができ、2003年、「インドネシアの子供の教育を救う会」を設立。副代表および事務局担当。2014年9月NPO法人化。代表理事となる。

コメント：今回の研究に関して辛抱強くご指導いただいたURCの岡田 允先生、数回にわたる論文中間チェックの遅れを温かく見守ってくださった主任研究員の嶋岡和久氏、さまざまなヒントをくれた同期の市民研究員たち、NPO法人の理事メンバー、協力してくれた多くのムスリムの友だちに心より感謝申し上げます。

